

## 1. 教育

中分類	アクションプラン
1.1 入学から卒業までの一貫した学生支援	<p><b>【PLAN 1】組織横断の学生支援体制の確立</b> 入学から卒業までの一貫した学生支援を実施するため、従来の縦割の業務分掌の垣根を越えて、入試から卒業に至る教育活動・学生支援の課題やその対応を IR により収集したデータや分析結果等のエビデンスに基づき協議し、解決を図るエンrollmentマネジメントを実現する。</p>
	<p><b>【PLAN 2】エビデンスデータに基づく教育の質保証</b> DX を活用して、入学から卒業後までの各段階で実施しているアセスメントを整理し、より効果的なアセスメントプランへの改善に取り組むとともに、各アセスメントデータや入試課、教務課、学生課、就職課に分散している情報を統合・集約する。また、IR を中心にそれを活用し多面的に分析することでデータ駆動型の教育の質保証に取り組み、3つのポリシーをはじめ、入学者選抜、教育プログラムや学生支援等について検証し、改善に向けた課題を明確にする。</p>
1.2 戦略的 student 募集と多様な学生受入れ	<p><b>【PLAN 3】多様な学生の受入れ</b> 本学には様々な学習履歴を持つ多様な学生が入学し、本学の教育プログラムをとおして能力を伸長する特性を持つ学生が存在する。そのような可能性を持つ学生の力を正しく評価できる入試選抜に改善し、多面的評価を初年次教育へ接続する。</p>
	<p><b>【PLAN 4】共感できるユニバーシティアイデンティティによる学生募集</b> 本学独自の特徴やビジョンに基づき組織イメージの統一を図り、本学の取り組みをとおして各ステークホルダーから共感を得ながら組織の内外ともに活性化を図る。その一環として教育成果を学生募集へ繋げるために、学生一人ひとりの成長データを蓄積・可視化し、その成長過程を「本学が受入れた学生の能力の伸長」の事例として学生募集の広報に活用する。これにより本学独自の特徴やビジョンに共感しつつ、高い学修意欲を有した学生募集につなげる。</p>
	<p><b>【PLAN 5】教育ブランド力の強化</b> ステークホルダー調査や教育力の可視化を定期的に行い、本学の教育面を中心としたブランド力と受験生のイメージのギャップを把握する。時流に合った受験生像を具現化し教育に対するニーズを明らかにしながら、本学の教育力が伝わるための教学改革の提言および学生募集に繋がるブランディング施策を行う。</p>
1.3 教育内容の質的転換	<p><b>【PLAN 7】IR を活用したカリキュラムマネジメントの確立</b> IR を活用した客観的エビデンスに基づき、教員本位のカリキュラムから学修者本位のカリキュラムへの質的転換を図る。また、適切な開設授業科目数についても検証し、カリキュラムの精選と構造化に取り組む。大学院教育への接続の点から学部在学中に大学院の一部授業科目を履修できる等の制度導入の可否を検討する。</p>
	<p><b>【PLAN 8】アセスメントを通じた“成長実感”の可視化</b> 各授業科目における到達目標の達成状況や各種アセスメントを通じて学生の成長とその実感の実態を明らかにし、教育の質保障と学修者本位の教育を実現する。また、学びや成長の実感がより高まる授業方法やカリキュラムの開発に学生も参画する FD 活動等も活用しながら取り組む。</p>

	<p><b>【PLAN 9】 課題解決型地域連携教育の展開</b>          地域の方々に本学の教育へ参画頂き、学生が地域の方とともに課題解決に取り組んでいく課題解決型地域連携教育を展開・拡充する。それにより学生が大学での専門的な学びと将来の社会生活や職業生活との結びつきを実感できる、社会的レリバンスのある教育を提供する。</p>
	<p><b>【PLAN 10】 大学院教育プログラムの見直し検討</b>          学部教育との接続、および社会ニーズの観点から、大学院教育プログラムの見直しを行う。学部4年生に対して、大学院の授業科目の履修を可能とする制度を導入する。大学院修士課程の一専攻化と現専攻のコース化の計画案を策定する。</p>
<p><b>1.4 学生支援の充実</b></p>	<p><b>【PLAN 11】 学生生活支援の充実(退学防止対策の強化)</b>          退学につながる三大要素である経済的理由、健康障害的理由、学力進路希望的理由への適切な相談支援体制を構築、または充実し、きめ細やかな学生支援を実現する。(相談室、奨学金見直し、個別健康相談、進路相談等)          心理アセスメントの導入活用、入学前(高校在籍時)のデータ活用、学生面談等支援の学年・退学リスク要因の種類別支援体制を検討する。</p>
	<p><b>【PLAN 12】 課外活動支援の充実</b>          学生生活全般に関する満足度を高めるため、課外活動等への支援について、支援内容の検証を行うとともに、さらなる支援強化のための指針や具体策について令和3年度に策定し、令和4年度より実施する。          資格取得を積極的に支援する体制を整備し、資格取得のための受験料を補助する制度の対象となる資格を拡大(目標:2倍)する。</p>
<p><b>1.5 就職活動支援</b></p>	<p><b>【PLAN 13】 キャリア形成科目の質的転換</b>          キャリア形成科目において、大学での学修計画の作成やその達成状況の振り返りを学生自身が継続的に行っていくことで、主体的学修者としての資質を育み、学修へのモチベーションを高め、「自分の学びが社会や将来の職業生活とどうつながるか」といった学修の意義についての自覚を深めるよう、授業内容の改善に取り組む。</p>
	<p><b>【PLAN 14】 社会構造の変化に応じた企業開拓と個別就職支援の強化</b>          社会構造の変化を踏まえ、各学科、各専攻と連携し、AI、ロボティクス関連企業やSDGs関連企業、グローバル企業等、将来有望な就職先企業の開拓を推進する。          学生ポートフォリオの活用等により、個々の学生の希望に沿った就職支援の強化を図る。          IR 推進センターと連携し、卒業生アンケートや就職状況の分析を行い、就職支援の満足度を高めていく。</p>
	<p><b>【PLAN 15】 卒業生へのサポート</b>          卒業後3年前後の短期離職者および卒業後10年前後のUターン就職希望者への就職斡旋体制の強化を検討する。</p>

## 2. 研究

中分類	アクションプラン
2.1 大学院の充実	<p><b>【PLAN 16】 大学院における実践的産業人育成のための教育力強化</b>            教員と大学院生からなる(学科横断型の)研究チームを形成し、大学院生の実践力を高める教育を推進する。大学院生の研究成果発表に対する褒賞制度を検討する。</p>
	<p><b>【PLAN 17】新しい知と技術に向き合うための研究環境整備</b>            各研究所、各専攻において、ハード、ソフト両面での最新の研究環境の整備を行う。</p>
	<p><b>【PLAN 18】 優秀な大学院生の獲得</b>            大学院の魅力度を高めて学部生に向けた広報活動を積極的に行い、優秀な大学院学生の獲得を図る。</p>
2.2 研究力の向上	<p><b>【PLAN 19】 オンリーワン技術創出のための研究支援</b>            モビリティ関連、AI 応用関連等の重点支援領域、および SDGs 関連等の新規分野の研究を支援する。            他大学等との共同研究を推進する。(久留米大学との医工連携、神奈川工科大学先端 AI 研究所との教育分野における共同研究など)</p>
	<p><b>【PLAN 20】 大学院の教育・研究体制強化</b>            将来の博士課程設置に向けて大学院の教育・研究体制の強化を図る。            大学院教員に対して、3年に一度の査読付き論文、または久留米工大研究報告への論文掲載を義務化する。            国際会議での研究成果発表および海外ジャーナル等への論文投稿の支援を行う。</p>
	<p><b>【PLAN 21】 研究 IR の推進</b>            研究力指標を用いた研究力の評価を行い、本学の強みを活かした研究分野の提案を行う。</p>
2.3 戦略的な外部資金獲得	<p><b>【PLAN 22】 研究マネジメント体制の構築</b>            研究改革推進委員会の下部組織として研究委員会を設置し、各学科、各専攻、各研究所における研究マネジメント体制を構築する。</p>
	<p><b>【PLAN 23】 外部資金獲得のための支援強化</b>            科研費申請時のピアレビューの導入、採択時の褒賞制度等を検討する。</p>

### 3. 社会貢献

中分類	アクションプラン
3.1 産学官連携	<p><b>【PLAN 24】産学官連携の推進</b>            企業や自治体のニーズと教員の研究シーズのマッチングを支援し、産学連携による研究を推進する。            研究や自治体のシーズに基づいた企業向けの技術開発提案を行う。            技術相談・技術指導体制を見直し、充実を図る。</p>
	<p><b>【PLAN 25】知の拠点形成</b>            IML や AI 応用研究所等における全学的なオンリーワン技術確立のための研究を推進する。(研究分野と協力)            少子高齢化、環境問題などの社会課題解決や、SDGs 実現に資する先行開発を推進する座組(コンソーシアム)の形成や参画を支援する。            研究ブランディング事業(パートナーモビリティ案件)の経験を活かし、上記座組による国家プロジェクトや自治体の公共事業への参画促進を図る。</p>
	<p><b>【PLAN 26】ブランディング強化</b>            知の拠点形成と国家プロジェクト採択を目指し、座組による取組み内容や成果を効果的な手法、タイミングで全国に発信する。(経営分野の情報発信と協力)</p>
3.2 社会・地域貢献	<p><b>【PLAN 27】地域技術支援体制の構築</b>            地域に開かれたものづくり拠点として、ものづくりセンターの施設・設備・人材の充実を図る。            「高等教育コンソーシアム久留米」を通しての地域貢献活動を活発化させる。</p>
	<p><b>【PLAN 28】初等・中等教育機関を巻き込んだ地域への技術教育</b>            初等・中等教育機関への出張講義及び公開講座を開催する。            AI 応用研究所と連携し、AI 教育の普及を支援する。            初等・中等機関の先生も生徒も対象としたものづくり技術の指導を行う。            小中高生を対象としたイベントの開催を初等・中等機関と共同で開催する。</p>
	<p><b>【PLAN 29】社会人リカレント教育の充実</b>            BPプログラム(履修証明プログラム)の内容を、AI、IoT 等、企業が求めるものにバージョンアップして実施し、企業人が受講しやすいように遠隔教材の充実を図る。            シニア世代へ学びの機会を提供するために公開講座の充実を図る。</p>
	<p><b>【PLAN 30】学生の社会参画支援</b>            学生中心の地域課題解決を推進し、地域の活性化・発展に貢献する。(教育分野の教育内容の質的転換と協力)            災害発生等の緊急時の学生ボランティアサークルの活動を支援する。(学生課)</p>

#### 4. 国際化

中分類	アクションプラン
<b>4.1 学生の国際化</b>	<p><b>【PLAN 31】 グローバルな社会で活躍できる人材育成</b></p> <p>グローバルな視点と工学の知識を兼ね備えた国際性豊かな人材を育成するため、グローバルマインドを醸成する人材育成プログラムを展開していく。</p> <p>セントラルワシントン大学と協働し、グローバルな視点を持つ AI 技術者育成のための語学研修プログラムを充実させる。</p> <p>学生の国際的コミュニケーションスキルとして英語能力を向上させるための英語検定試験対策講座を開講し、多くの学生が TOEIC 等を受験することを促す。</p>
<b>4.2 国際化に向けた戦略的な留学生獲得</b>	<p><b>【PLAN 32】 優秀な留学生確保及び支援</b></p> <p>入学から卒業、修了後の進路に至るまでのキャリアパスを明示し、アジアをはじめとする諸国から優秀な留学生を継続的に獲得し、国際的水準の教育研究による人材育成を行う。</p> <p>留学生のインターンシップや就職の説明会を開き、留学生の求職ニーズと企業の採用ニーズの情報収集に努めると共にマッチング体制を構築する。</p> <p>現行の授業料減免制度を見直し、優秀な留学生に対する奨学金を充実させる。</p>
<b>4.3 国際化推進体制の整備</b>	<p><b>【PLAN 33】 国際化に対応できる大学</b></p> <p>本学の国際化を促進するために現在の国際化推進体制を整備し、より効果的・戦略的な体制づくりを目指すと共に教職員の国際化対応能力の向上を図る。</p> <p>海外大学等との国際交流協定の締結を進め、学術的な連携、協力を推進し、本学の研究レベルの向上を図ると共に海外の研究者との共同研究を推進する。</p> <p>教職員が協力して国際化を推進するための、研修、人材交流、情報収集を促進する。</p>

## 5. 経営

中分類	アクションプラン
5.1 組織	<p><b>【PLAN 34】 大学運営組織の見直し活性化</b>            各種学内委員会等の活動状況を把握し、必要な課題の共有化と、その変化等に合わせ、事務局組織との連携協力も含めて、さらに効率的な活動ができるような必要な見直しを行う。            組織及び事務運営手続き等について、状況に見合った迅速かつ的確な意思決定と、効率的で最適な事務運営が可能となるよう見直しを進める。</p> <p><b>【PLAN 35】 DXを活用した効率的な事務運営・管理体制への改善</b>            新学務システムを導入し、個別最適化された学生状況の把握・支援、IRの反映・活用、効果的情報共有と学生指導等を実現する。            事務のDX対応、事務の標準化等を進め、一部専門的業務のアウトソーシング等、事務局運営体制の見直しを図り、効率的な体制構築と最適な職責の職員配置を推進する。            その他、ペーパーレス文書管理・電子決裁システム等により、効率的空間活用と迅速な決裁システムを導入する。</p>
5.2 人事	<p><b>【PLAN 36】 専門知識を活用できる職員の確保及び能力開発制度の充実</b>            大学職員として必要な基礎知識の蓄積とともに、一定の専門知識を要する業務に対応できるノウハウ（業務委託を含む）の蓄積、活用ができる職員の確保、養成を進める。            DX等の変化の激しい状況を踏まえた能力開発・研修システムを導入する。</p> <p><b>【PLAN 37】 教職員の意欲につながる人事評価・給与制度の構築</b>            効率的効果的で風通しの良い組織運営、ハラスメント防止等を目的に、360度評価を導入。プライバシーに配慮して必要なフィードバックを実施する。（育成型個別指導を盛り込む）            ベストティーチャー、個別人事評価等を反映した賞与制度など、意欲と能力、実績に連動した給与処遇制度を導入する。また、大学院教育職員の手当制度について検討する。</p>
5.3 財務	<p><b>【PLAN 38】 外部資金・寄付金等の確保と基金の充実</b>            使途指定型寄付金（プロジェクト基金、修学支援基金等）の活用を図る。            地域連携や卒業生との連携を強化し、クラウドファンディング、知財活用等で研究費を効果的に確保するノウハウを蓄積する。また、必要に応じ、外部資金獲得のための専任担当者を設置する。</p> <p><b>【PLAN 39】 中長期的な施設整備維持計画</b>            大学ビジョンや教育内容等を踏まえ、優先順位を考慮した中長期的な施設整備計画を策定し、学内協力のもと、計画的継続的な施設設備の整備、更新等を実施する。（現状で学生数の増に対応できていない学習環境の整備、将来的に学生確保に繋がる施設課題等を検討）</p>
5.4 情報発信	<p><b>【PLAN 40】 大学活動の積極的な情報発信・意見収集</b>            地域や産業界との共同研究の実績や計画、学生生活での協力の状況等を積極的に発信し、実践的な教育内容の理解促進と協力体制を構築。地域、産業界との連携は、マスメディアを活用し、広く周知に努める。            在学生保護者及び卒業生等に対しても、大学情報を積極的に発信・周知し、必要な情報の共有化を図るとともに、教育内容等への改善意見等をいただくなど、本学との連携協力を強化する。            以上の業務を総括的に計画実施する「広報専任職」を「業務委託」により設置する。</p>
	<p><b>【PLAN 41】 学生募集広報の最適化</b>            18歳人口の減少、大学進学率の頭打ち状況を踏まえ、特色ある教育内容、実践的な研究活動、高い就職率等の本学の魅力を、年間広報計画に基づき、受験生、保護者、高校進路指導教員等に向けて戦略的かつ積極的に発信する。オンライン広報を中核として、SNSの活用やリモート面談等、さまざまなツールを利活用する。全教職員が広報員として貢献する。</p>